



Japan Society for Tobacco Control

日本禁煙学会

<http://www.nosmoke55.jp/> E-mail [desk@nosmoke55.jp](mailto:desk@nosmoke55.jp)  
〒162-0063 東京都新宿区市谷薬王寺町 30-5-201  
Tel 03-5360-8233 FAX 03-5360-6736

映画倫理委員会 委員長 大木圭之介様  
文部科学大臣 下村博文様  
厚生労働大臣 田村憲久様

2013年8月27日

特定非営利活動法人 日本禁煙学会  
理事長 作田学

### 喫煙シーンの成人映画指定についての要望

米国と同様に、映画の中で喫煙を美化したり、歴史的背景やストーリー上必要もないのに喫煙シーンが多い映画を成人映画に指定していただきたく、お願い申し上げます。

#### 記

映画界の健全なる発展のために日頃から努力されていることに心から敬意を表します。私たちは、広く国民を対象に、タバコ規制に必要な科学的知識・技術の発展と普及に資することで、社会全体としての健康保持に寄与することをめざして取り組んでいる団体です。

映画倫理委員会は概要の中で、「特に青少年に対しては、映画の与える影響を重視して、作品を主題・題材とその表現の仕方に応じ、年齢別に4段階に区分し、作品によっては青少年の劇場への入場を制限したり、保護者の助言・指導をうながすなどの措置を講じております。」と述べています。そして、配慮すべき法令の中で、法の精神に配慮するものとして、一番目に「未成年者喫煙禁止法」を掲げています。

タバコは世界的に見ても、2005年に発効したFCTC(タバコ規制枠組条約；日本は2004年6月批准)で規制強化が進み、そのことにより映画等でも条約に則った対応がなされているところです。国内では、健康増進法や一部の自治体での受動喫煙防止条例などの制定により、タバコの害に対する周知とともにその防止の強化が図られているところです。

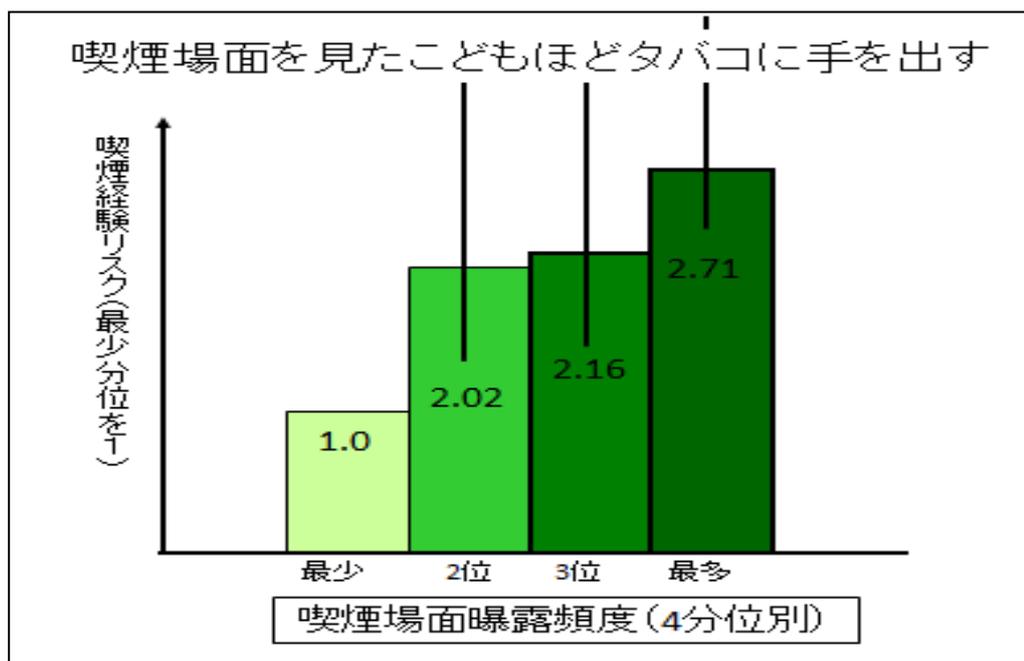
そのような社会情勢の中で、昨年上映された作品の中には、青少年に対してタバコの認識を誤って伝える問題のある作品が続きました。それらは未成年者の喫煙の問題であり、受動喫煙に対する認識の欠如であり、タバコ会社の宣伝であります。このことは明確なFCTCに対する遵守義務違反なのです。

特に問題としてあげられる昨年上映された作品「苦役列車」では、役の上で19歳と名乗る主演を含めた3人(男2人、女1人)が堂々と喫煙しています。中でも主演の森山未来(彼は実年齢では未成年ではありませんが。)は、ほとんどのシーンで喫煙するというタバコの宣伝以外のなにものでもないという扱いでした。

また、「愛と誠」では、高校の教室内がタバコの煙と吸い殻で満たされた異常な光景がなんども映し出されました。まるで高校での喫煙を勧めているかのようでした。吸っていたのは未成年ではないと思いますが、役の上では高校生なのです。

ところで、未成年者の喫煙のキッカケが映画やテレビの影響が大きいということは各種の調査で明らかになっています。

アメリカでの調査では、映画の喫煙シーを見た回数で子どもを4等分して調べると、喫煙場面を見る回数が多くなるほど、喫煙を始めるようになることがわかりました。人口動態学的特性、社会的影響、子どもの性格、親のしつけなどを調整しています。



【出典】サージェント博士 PPT45 枚目

<http://www.smokefreemovies.ucsf.edu/Presentations/SmokingInMovies-The%20Science.ppt>

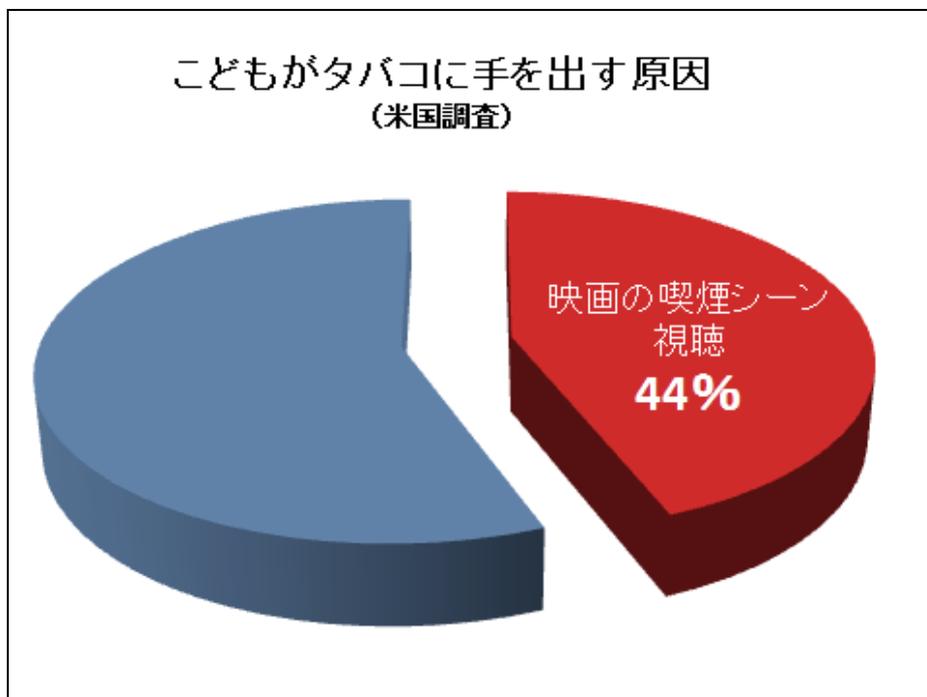
子どもがタバコに手を出すきっかけは色々ありますが、映画の喫煙シーン以外の喫煙促進要因を考慮した上での結論です。

映画の喫煙シーン視聴以外に考慮された喫煙開始に関連する要因  
(統計解析に当り、これらの因子が調整された)

- 学年
- 性別
- 所属学校
- 喫煙する友人の有無
- 兄弟姉妹の喫煙の有無
- 親の喫煙の有無
- タバコの宣伝・販促に対する受容度
- 学業成績
- 刺激や危険を求める性向の有無
- 反抗的な性向の有無
- 自己評価の度合い
- 親の学歴
- 親の厳しさの度合い
- タバコを吸ってはいけぬという親の態度に対する反応等

【出典】 Sargent JD, Beach ML, et al. (2004) Effect of parental R-rated movie restriction on adolescent smoking initiation: A prospective study *Pediatrics* 114:149–156.

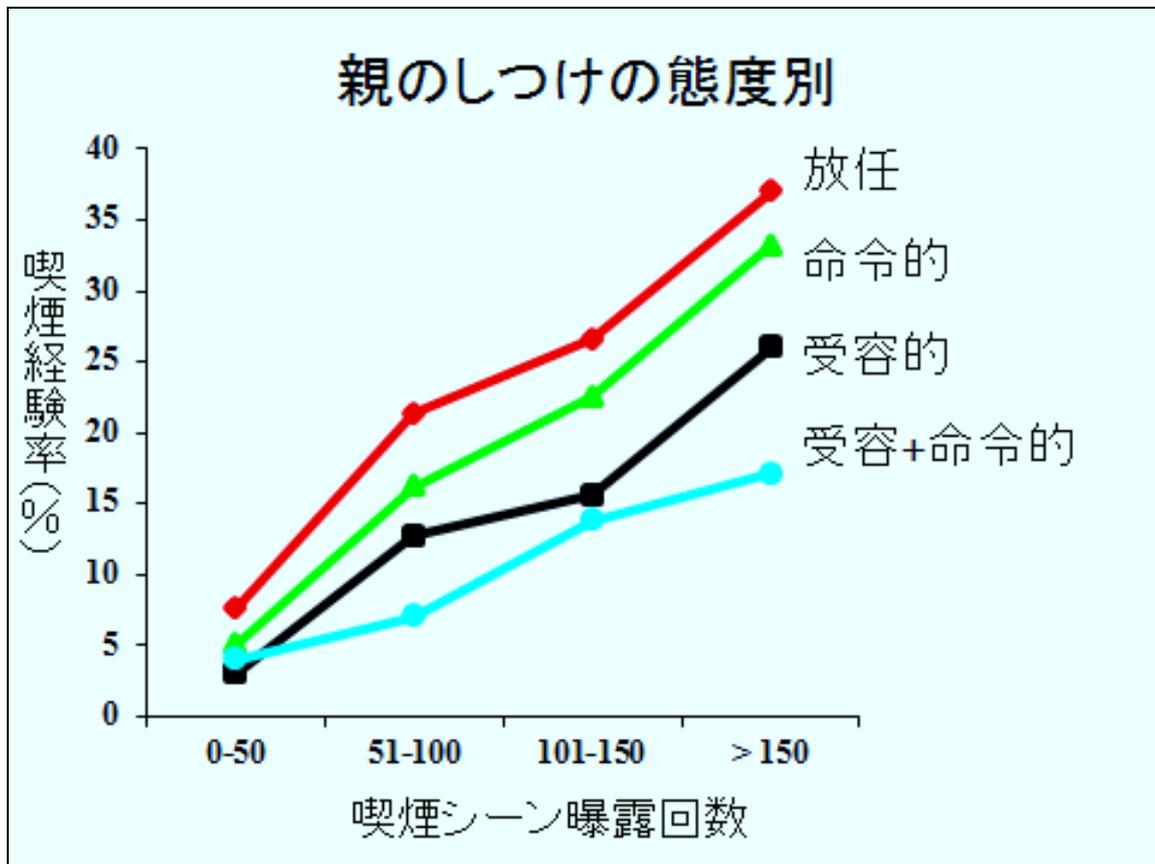
子どもがタバコを吸うようになる原因は他にも沢山ありますが、このアメリカの調査では、もし映画で喫煙シーンを見ることがなければ、子どもの喫煙開始は44%減るはずだということが明らかになりました。映画の喫煙シーンは子どもの喫煙を促進する最大の原因のひとつなのです。



【出典】 (MMWR) Smoking in Top-Grossing Movies --- United States, 2010  
<http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm6027a1.htm>

子どもの喫煙は親の責任が大きい。親がしっかりしていれば、いくら映画で喫煙シーンを見ても、子どもの喫煙は防げるのではありませんかという考えもあります。

しかし、この調査では、親のしつけの影響も調べています。それによると、子どもの心に寄り添うが、社会ルールは守れと言うしつけ態度の親（受容+命令的）であっても、その子どもは映画の喫煙シーンを見るほど、タバコに手を出すようになります。放任主義的な家庭であっても、映画の喫煙シーンを見ない子どもは、ほとんどタバコに手を出していませんでした。

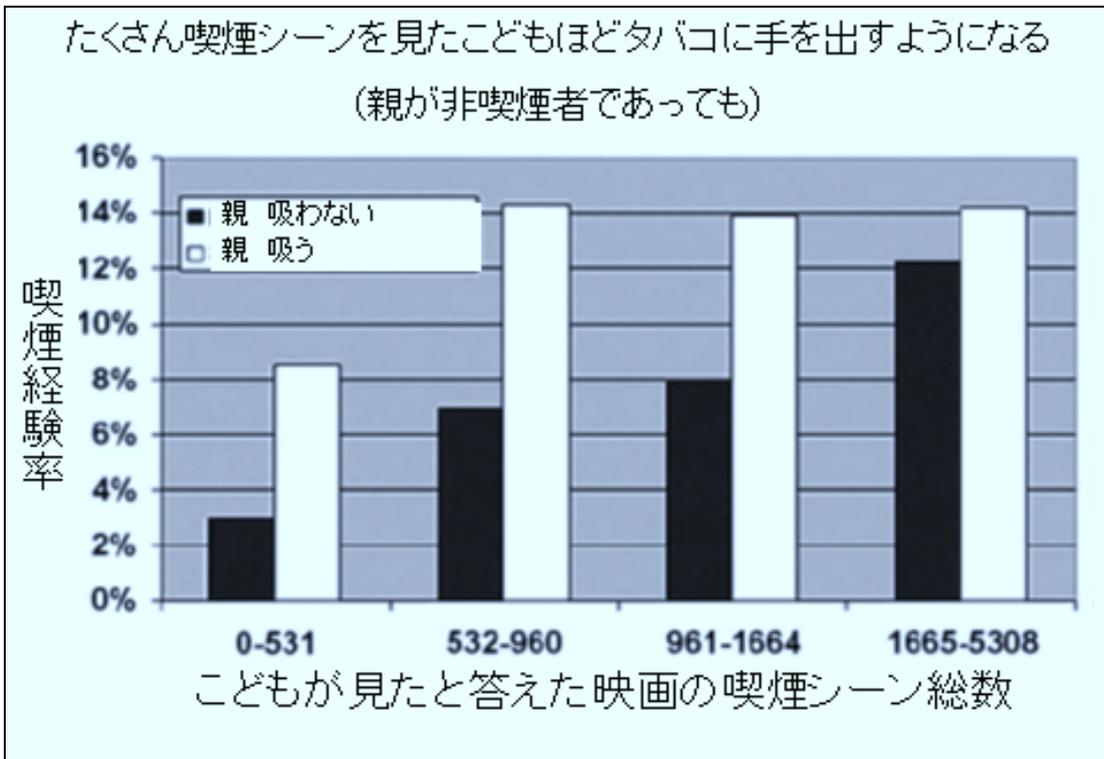


【出典】サージェント博士 PPT

<http://www.smokefreemovies.ucsf.edu/Presentations/SmokingInMovies-The%20Science.ppt>

親が吸えば子どもも吸うようになりやすい。映画の喫煙シーンよりも、親の喫煙の方が問題ではないかという考えもあるでしょう。

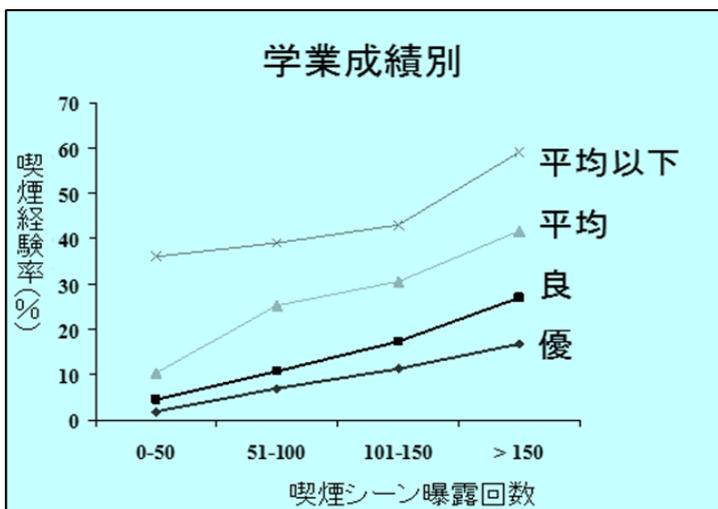
しかし、親がタバコを吸わなくとも、映画の喫煙シーンを見るほど、子どもはタバコに手を出すようになっていました。子どもがタバコを吸うようになるかどうかについては、映画の影響はとても大きかったのです。

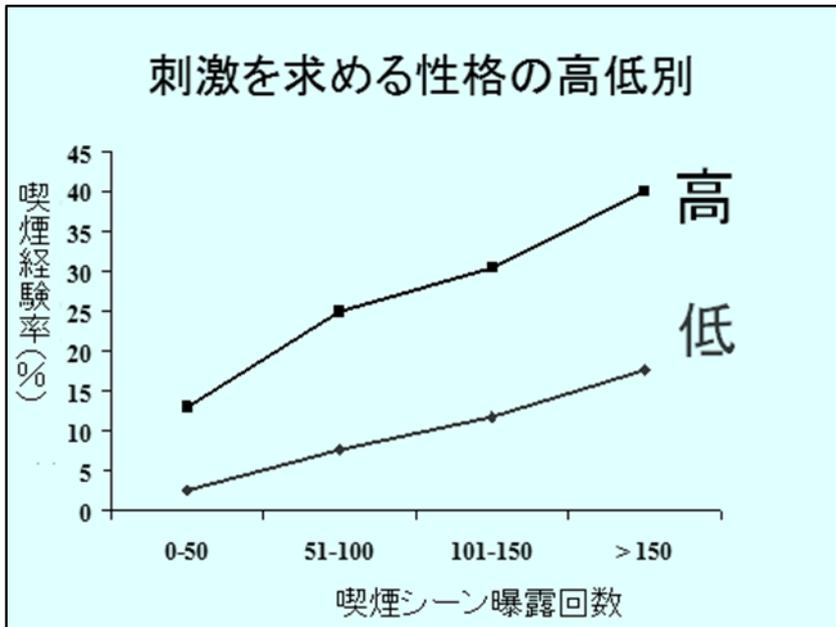


【出典】Charlesworth A, Glantz SA. Smoking in the movies increases adolescent smoking: a review. Pediatrics. 2005 Dec;116(6):1516-28.

映画でタバコを吸う場面を見ることよりも、学校の成績がおもわしくないとか、危険なことを好むタイプだということが、タバコに手を出す原因として大きいのではないかと考えるかもしれません。

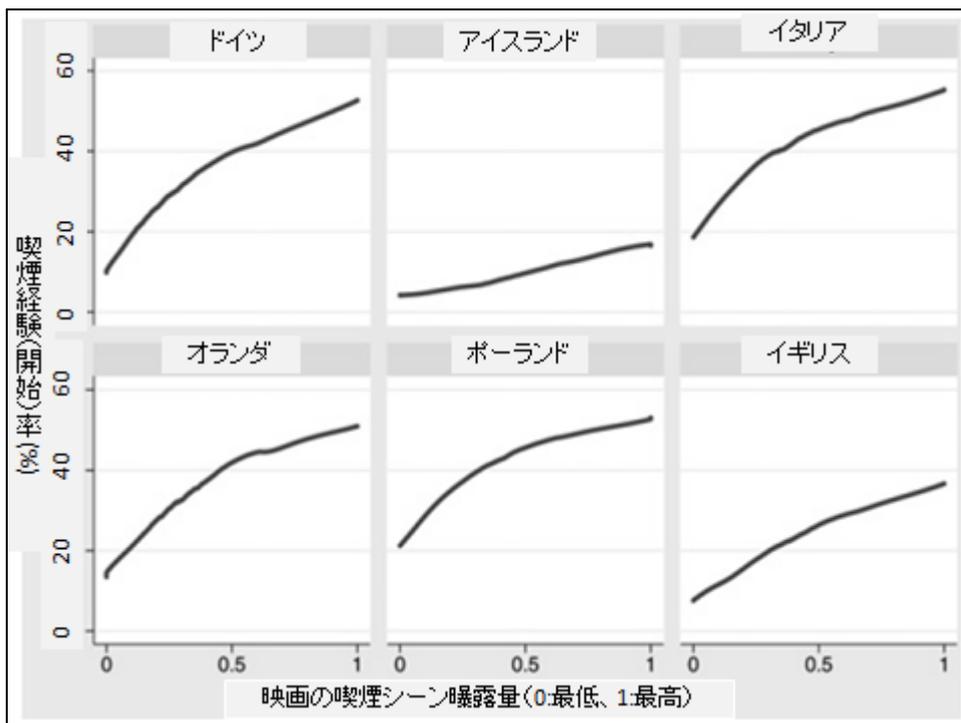
しかし、学業成績別、刺激を好む性向別にみても、映画の喫煙シーンを見るほど、タバコに手を出しやすくなっていました。映画の喫煙シーンを見る頻度が減るほど、成績や性格にかかわらず、タバコに手を出す子どもを減らすことができることになります。





【出典】サージェント博士 PPT

<http://www.smokefreemovies.ucsf.edu/Presentations/SmokingInMovies-The%20Science.ppt>



アメリカ以外の国でも、映画の喫煙シーンを見るほど子どもがタバコを吸うようになるというデータがあります。このように、ヨーロッパの6カ国における調査でも同じ結果が出ています。

【出典】Morgenstern M, et al. Smoking in movies and adolescent smoking initiation: longitudinal study in six European countries. Am J Prev Med 2013; 44(4):339-44.

タバコに対する社会的通念や文化的背景、法律による規制が様々でも、映画でタバコを吸うシーンを見れば見るほど、子どもがタバコに手を出すようになることが示されています。日本での調査データはありませんが、日本でもアメリカやヨーロッパ諸国の調査結果が大いに参考になると考えます。

映画の中の喫煙シーンに関して、「登場人物たちの設定・シーンからたばこを除いてしまったら、時代背景がリアルに伝わらない」、「過去のあらゆる作品には、良かれ悪しかれ人々の生活や世相を映した喫煙シーンが出てきます。…時代描写を曲げることには反対です」などの意見があります。

確かにこの作品の時代だけでなく、江戸時代以降、小説・映像や実生活にタバコや喫煙シーンがあるのは事実だとしても、現在制作の映画・アニメ・テレビドラマ作品などに、これらを登場させるのが不可避・不可欠というものではありません。タバコや喫煙そのものが作品のメインテーマである訳ではなく、作品テーマそのものは別なのですから、殊更にタバコや喫煙シーンを入れなければ作品が成り立たない訳では決してありません。

例えば、2013年春に上映の、三浦しをん原作のベストセラー小説の映画「舟を編む」（石井裕也監督）☆では、辞書編集が始まった1990年代前半の男性喫煙率は60%くらいでしたが、主な登場人物は喫煙していません。出版社での喫煙がまだ当たり前の時代でしたが（紙一杯の辞書編集室は禁煙だったと小説では書かれているとしても）、出版社の営業部でもタバコは出てきておらず、居酒屋でも離れた席の喫煙シーンが少し出てくるだけぐらいで、タバコが迷惑との表示カットもあるなど、映画製作者・原作者のお考えが反映されているようでもありました。

☆<http://blog.goo.ne.jp/kaeruyama5151/e/844eaed12ccd0aabe857880418a44f50>

また、2013年6月上映の木下恵介監督がモデルとなった「はじまりのみち」（原恵一監督）☆は1945年が舞台ですが、この作品にもタバコは使われていません。

☆<http://blog.goo.ne.jp/kaeruyama5151/e/a66538dce34c16ccb01948b03f066f5>

タバコや灰皿という「小道具」がなくても、その時代を反映する方法は様々にあります。アメリカでは、「2007年5月10日から映画の中で喫煙を美化したり、歴史的背景やストーリー上必要もないのに喫煙シーンが多ければ“R指定”となる。」という新基準を米映画協会が打ち出しました。また、2010年8月には、「映画の喫煙シーンに影響されて喫煙を始める未成年者が多いことから、米疾病対策センター(CDC)は映画への規制強化を求める報告書を発表しました。具体的には、喫煙シーンを含む映画の前にタバコの害を説く広告を上映することや、映画制作者がタバコ会社から見返りを得ていないことを証明する措置などを導入することを提案しています。また、報告書はタバコの場面がある映画は成人向けに指定すべきだとも述べている。」と報道されています(読売新聞)。また、インドやタイなどでは実際に喫煙場面は厳しく制限されています。

喫煙が人の命を縮め、医療費負担の増大などの大きな社会的損失の一因となっていることは明らかです。また、映画界においても、タバコが原因と思われる病気で多くの俳優な

ど関係者が寿命を全うせず、亡くなられています。長く映画界において活躍していただきたいにもかかわらず早世してしまうことは全く不幸なことと言わざるをえません。

以上のことから、映画界の健全なる発展と未成年者をタバコの害から守るために以下のことを要望いたします。

喫煙シーンが入る場合は、未成年者への影響を考慮し、R指定とすること。

以上